

## 第26回 P I 外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年10月23日（木） 午後7時00分～9時00分

2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：27名

関係者（敬称略）

須山 直哉（練馬） 武田 佳登（練馬） 湯山 茂（練馬） 宿澤 藤子（杉並）

濱本 勇三（武蔵野） 村田 あが（武蔵野） 新 守一（三鷹）

富澤 和也（三鷹） 樋上 寛（三鷹） 遠藤 好照（調布） 川原 徳重（調布）

渡辺 俊明（調布） 橋本 妙子（狛江） 江崎美枝子（世田谷） 栗林 勝彦（世田谷）

地元自治体

平野 和範（練馬区部長） 菱山 栄二（杉並区部長） 塩沢 忠彦（武蔵野市部長）

柴田 直樹（三鷹市部長） 新谷 景一（調布市部長） 大川 宗男（狛江市部長）

栗下 孝（世田谷区部長）

国土交通省・東京都

川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官） 伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）

道家 孝行（東京都外かく環状道路担当部長） 宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約50名

5. 概要：

## 【環境調査について】

- ・エリア懇談会は、練馬を北・南に分けるのではなく、練馬単独にして欲しい。分ける必要はないと思う。
- ・練馬は、大泉JCTの話と青梅街道ICの話を抱えている。両者はまったく違う性質のものであり、議論の場を別にし地域に特化した議論を行う必要があり、2地区に分けるべき。
- ・今後の練馬区の街づくり計画等を考えると、練馬を1本化し一体性・整合性を確保すべき。
- ・今回は環境調査について話し合う場であり、必ずしも行政単位で行う必要は無いと考える。むしろその地域特有の情報を交換すべきである。
- ・エリアの名称は、誤解を招く言い回しになっていると思う。単に地域毎にエリア分けし、場所を特定するために名称を付けたもの。
- ・協議員は、関心があればどのエリア懇談会にも行ける。
- ・各エリア毎に環境調査の場所等を相談するためのもので、地域に特化した議題であるため、地域毎にご相談の方が、議論の効率が良い。
- ・運営懇談会でのエリア設定の提案は、環境に与える影響が大きいJCTとIC周辺で実施すべきと考えており、関越道周辺エリアを練馬北エリア、青梅街道周辺エリアを練馬南・杉並・武蔵野周辺エリア、中央道周辺エリアを三鷹・調布周辺エリア、東名高速周辺エリアを狛江・世田谷周辺エリアとした。
- ・エリア懇談会の名称については、運営懇談会の提案の名称を用いることとし、各協議員の参加は各協議員の判断に委ねることを確認した。
- ・各エリア毎に議論された結果は、協議会に報告する。
- ・方法書の意見の概要で、自分が出した意見は何処に反映されているのか。複数出された意見は反映させるべきである。
- ・意見の概要は、意見書の内容や文脈、類似の意見を整理して取り纏めたものである。
- ・方法書の内容で、今後計画内容が決まってくると、新たな調査が必要となるのではないか。
- ・方法書は、想定されているものを全て網羅できるように綿密に調査箇所を提案しているが、今回想定するものを越える場合は、あらためて調査が必要。
- ・外環を造ることによって、現在の環境がこれ以上悪くなることは容認できない。
- ・アセスと協議会の今後のP Iスケジュールを提示することが必要。

## 【その他】

- ・運営懇談会は協議会の進め方や議論のテーマを決めるもので、内容を議論する場ではない。
- ・運営懇談会は協議員の誰もが参加できるものであり、各協議員に多くの出席を望む。
- ・質問の内容によっては、専門的なものもあり、協議員全員で行う必要がないものがあることから、資料提出者と質問者が個別にやりとりし、協議会に報告する。